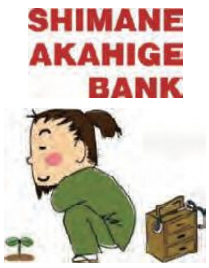
島根の地域医療

第66号
2018/11/1
発行者　島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室



今回の紙面

◆地域医療最前線 NO.71《社会医療法人石州会六日市病院 副院長　重冨　雄哉》
◆看護師さんのページ NO.51《島根県立中央病院 入退院支援・地域医療連携センター 看護師長　岩佐　佳栄》
◆研修医のページ NO.54《島根県立中央病院 研修医　谷口　洋樹》
◆離島医療フェス in 隠岐　◆平成 30 年度 島根県医師事務作業補助者研修会
◆平成 30 年度 しまね専門研修プログラム説明会　◆中学生 メディカル・アカデミー
◆医療政策課からのお知らせ

地域医療最前線 No.71

社会医療法人石州会六日市病院
副院長　重冨　雄哉

先日、「島根県は人口10万人あたりの100歳以上の方が日本で最も多く、101・02人で6年連続トップ」というニュースが流れました。当県の高齢化がいかに進んでおり、同時に若い世代が減っているかを物語っています。

世の中は2025年、2050年に迎える高齢社会に備え様々な策を検討していますが、島根県ではその時代を先取りし、これまで多くの医療機関が高齢社会に対し何ができるかを考え、そして変化をしてきました。

当院も1981年に開設して以来、周辺地域の医療圏ではオンリーワンの存在として、行政（吉賀町）、社会福祉法人、地域の医療機関と連携しながら地域包括ケアにいち早く取り組んでまいりました。また、社会医療法人としても、持続的な医療提供に向けた取り組みを周辺住民のニーズに応えながら着実に進めており、病院ともども日々進化を続けています。住民の皆様と共にこの時代を歩みながら、継続的に変革してきた地域医療体制の最前線にいることに自分は幸せを感じています。また、当院で勤務する医療従事者や事務職員には地元出身者も多く、地元、ひいては島根県の医療の灯を絶やさぬように、システム構築、日々の業務に励んでいます。このような取り組みが有効事例として地域医療の新たなロールモデルとなれば、我が国における更なる高齢化、また、これから日本以上のスピードで高齢社会を迎える台湾、韓国、中国をはじめとしたアジアの国々の医療・ケア作りの基礎となることもあるのではないでしょうか。

また、地域医療には、大学では学べないようなことが多くあります。地域で活躍されている先生方の働き方はプロフェッショナリズムにあふれています。当院では、10年前から医学生や研修医の実習を受け入れており、今では多くの医学生・研修医が当院で地域医療の重要性を学び、帰っていきます。その中から何人かが当院に専門医として働きに来てくれており、その姿を見て我々の取り組みが間違っていなかったとホッとする日々です。地域住民が医師を育てることで、その医師はいつか地域に帰るといわれています。住民の皆様にもご協力いただき、地域で活躍する医師をこれからも育て、共に働いていければ幸いです。

看護師さんのページ No.51

入退院支援・地域医療連携センターの取組みについて

島根県立中央病院
入退院支援・地域医療連携センター
看護師長　岩佐　佳栄

入退院支援・地域医療連携センターでは、入院が決定した患者さんに対して、入院前から薬剤師や看護師が関わりを持ち、安全で安心な入院生活ができるよう支援しています。退院支援の必要性が予測される患者さんについては、社会福祉士や退院調整看護師との情報共有や、ケアマネジャーとの早期連携等、円滑な退院調整に向けた支援を行っています。また、シームレスな在宅療養への移行支援のために、今年4月からは「退院前後訪問指導」を本格始動しました。

「退院前後訪問指導」とは、退院前や退院後に、当院の病棟看護師や認定看護師、退院調整看護師、社会福祉士等の医療従事者が患者さんのご自宅を訪問し、患者さんやご家族と一緒に退院後の療養環境を確認しながら、その場でご相談に応じたり、医療処置などの準備や指導を行う取組みです。訪問指導の際には、院外のケアマネジャーや訪問看護師、福祉用具貸与販売店の方など、地域の支援者の方々と一緒に訪問することも多くあります。同行いただいたケアマネジャーからは「自宅で病棟看護師や認定看護師と意見交換ができ、お互いの認識の差がなくなる気がして嬉しく感じる」、病棟看護師からは「自宅退院に向けて色々な心配があったけれど、実際に自宅の様子を確認することで何が必要かよくわかる。より具体的なケア計画が立案できる」と好評です。また、訪問指導の度に病院側と地域側がともに気づきや学びがあり、それが患者さんやご家族へのより良いケアや療養生活支援につながっていく手ごたえを感じています。そして何よりも、退院前後訪問指導を通じて、病院と地域の支援者が一つのチームとなって支援できることが患者さんやご家族の安心につながっていると強く実感しています。

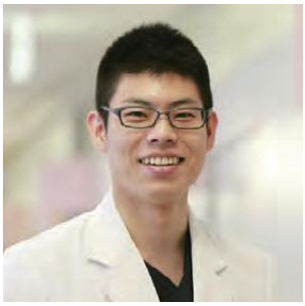
地域の支援者の方々とは、合同研修の企画・実施をはじめ、退院前カンファレンスやケアマネジャーとの介護支援連携指導等を通して、顔の見える関係を構築しており、在宅療養を支える仲間としてお互いが感謝し成長しあうパートナーとなっています。

島根県立中央病院では、病気やけがを抱えたり、要介護状態となっても住み慣れたご自宅で暮らしたいという患者さんの願いを叶え、患者さんやご家族が安心して在宅療養へ移行できるように、入院前からの支援も強化しながら、地域と一体となってサポートしていきます。

研修医のページ No.54

離島医療を学ぶ

島根県立中央病院
研修医　谷口　洋樹



皆様こんにちは。島根県立中央病院初期研修医2年目の谷口洋樹と申します。私は、本年8月の1ヶ月間、隠岐島前病院で地域医療研修をさせて頂きました。そこで経験したことをご紹介いたします。

隠岐諸島は島前と島後（人口約14，000人）からなり、有人離島として、島前には隠岐島前病院のある西ノ島（人口約2，900人）、中ノ島（人口約2，300人）、知夫里島（人口約600人）の3島があります。

私事ですが、20年程前に西ノ島に住んでいたことがあります。今回隠岐島前病院へ行くにあたり、下調べもほとんどせず「20年ぶりに西ノ島に行くんだ」といった気持ちで来てしまったことをすぐに後悔しました。超音波について院長先生が執筆された青と黄色の本は必携でした。超音波機器の台数は医師数より多く、超音波画像はカルテで見ることができ、指導医からすぐにfeedbackが頂ける等、非常に恵まれた環境でした。

当直や救急当番の際には「ドクターヘリでの搬送」や知夫里島からの「救急船での搬送」などにも関わり、また台風でのフェリー欠航なども体験し、「島」での救急医療の大変さをしみじみと感じました。陸続きであれば救急車での搬送が可能であるのに対し、離島での救急搬送は天候の影響を強く受けるため、様々な条件を考慮する必要があることを強く感じました。救急搬送の判断やヘリ、船が来るまでの慌ただしさは、普段自分が島根県立中央病院の救急外来で引き受けるまでにどれだけの行程があるのかを知る良い機会となりました。

また、この機会を利用して西ノ島、中ノ島、知夫里島の観光も充分に堪能でき、休日は夏休み気分で過ごすことが出来ました。日本海の絶景、ヨット、魚釣りやBBQを十二分に堪能できた1ヶ月でした。

今回の地域医療研修で得たものは、何科の医師を目指す上でも生きると思います。来年以降は脳外科に進む予定で、隠岐島前病院と直接的に関わりを持つ機会はすぐにはないかもしれませんが、いつか隠岐に恩返しができる様

頑張ります。
1ヶ月間大変お世話になりました。ありがとうございました。

離島医療フェスin隠岐

医師の偏在は全国的な問題でありますが、離島における医師不足はさらに切迫した課題です。「離島医療」という言葉からは、情報や人脈からの遮断といったネガティブなイメージを連想される場合が多く、学習や教育、人的交流に対して不安を持たれてしまい、そのことが離島勤務への阻害要素になっていると想像されます。しかし、現在ではインターネットの普及により情報収集は飛躍的に容易となりましたし、むしろ地域住民との距離が近いといった離島医療の魅力を改めて発信していくことが必要と感じています。こうした考えのもと、医学生や研修医に対して「離島医療の実際を知り、その魅力を感じてもらう」ことを目的としてこのたび離島医療フェスin隠岐を開催しました。

講師には、
名瀬徳洲会病院　平島　修 先生
上五島病院　八坂　貴宏 先生
順天堂大学医学部附属練馬病院　坂本　壮 先生
国立病院機構大阪医療センター　松本　謙太郎 先生
島根大学医学部附属病院　和足　孝之 先生
隠岐島前病院　白石　吉彦 先生

と錚々たる先生方をお招きし、以下のようなコンテンツを提供していただきました。

・重症患者シミュレーション（敗血症）
・ショック時の熱血フィジカルアセスメント
・産科救急・分娩シミュレーション
・小外科ハンズオン
・エコーを使いこなすハンズオン
・感度特異度から尤度比へ（講義）

また、医学教育コンテンツ以外にも住民と触れ合うイベントも企画しました。夕食懇親会では地域の民謡を楽しんでもらったり、住民と医学生や研修医がグループを組み離島医療の問題や魅力について話し合う「離島医療サミット」も開催しました。かなり白熱した議論が展開され、医学生たちが各グループの意見をプレゼンしてくれました。

イベント全体を通して、
①隠岐における離島医療の現状とその楽しさを感じてもらえた
②離島でも指導者とそれを支えるシステムさえあればしっかり学べることを知ってもらえた
③身体所見など学んだことを還元するのに最適な場所のひとつであることを知ってもらえた
④離島では患者との距離が近く、患者中心の医療を意識しやすい場所であると感じてもらえた

などの効果が得られたと感じました。

受講生の医学生、研修医のみならず、隠岐病院で勤務する指導医にとっても非常にいい刺激になったと思います。離島医療における医師確保は継続的な課題でありますが、離島医療の魅力を発信し、それに呼応してくれる若者が一人ずつでも増えてくれることを願って、今後も活動を続けていきたいと考えています。

【隠岐広域連合立隠岐病院　助永　親彦】

平成30年度 島根県医師事務作業補助者研修会

6月23日（土）、島根大学医学部附属病院ゼブラ棟で「平成30年度島根県医師事務作業補助者研修会」が開催されました。この研修会は、県内医師事務作業補助者のスキルアップと情報交換を目的に平成26年度から開催されています。第4回目となる今回は、県内24施設から95名が集い、実務者だけでなく、管理者や医師、事務担当者も多く参加されました。

まず、NPO法人日本医師事務作業補助研究会理事長の矢口智子氏より、「医師事務作業補助者の課題と展望」をテーマにご講演いただきました。勤務医不足の背景や医師事務作業補助体制加算の導入などをふり返った上で、今後の課題である職種確立や継続教育への取り組みについてご紹介くださいました。

つぎに、松江市立病院、島根大学医学部附属病院、大田市立病院、隠岐病院から、それぞれの病院での取り組みについて発表いただきました。

その後のグループワークでは、活発な意見交換が行われ、情報交換とともに問題解決の糸口を見いだせた方も多くおられました。

医師事務作業補助者の果たす役割は「医師の事務作業の負担軽減」から「医療の効率化と生産性向上」「医師の働き方改革」へ貢献できる職種として発展が期待されています。今

後も、県内の医師事務作業補助者のさらなる活躍により、良質な医療の提供や医師の環境整備につながることを願っています。

【国立病院機構浜田医療センター　田中　加奈子】

平成30年度 しまね専門研修プログラム説明会

8月9日（木）、松江市のサンラポーむらくもにおいて、しまね地域医療支援センター、島根県及び島根大学医学部附属病院の主催により、しまね専門研修プログラム説明会を開催しました。

今年度から新専門医制度が始まり、島根県では37名の専攻医（卒後3年目医師）が県内で専門研修を行っています。今回の説明会は、これから専門研修先を選ぶ初期研修医に県内のプログラムについて理解を深め、キャリア形成の参考にしていただくことを目的に開催しました。

説明会には、松江、出雲市内の病院から12名の初期研修医が参加し、始めに島根大学医学部附属病院、県立中央病院、県立こころの医療センター、総合診療専門医ネットワーク（島根大学医学部地域医療支援学講座）から、各プログラムの概要を説明していただきました。その後、各診療科、病院別に個別相談＆交流会を行い、参加研修医は、希望する診療科や病院のプログラム責任者、指導医の先生方から、詳しい説明を聞いておられました。

今回は初めて松江で開催しましたが、今後も多くの研修医にしまねの専門研修を選んでいただけるよう、情報発信していきたいと思います。

【しまね地域医療支援センター】

中学生 メディカル・アカデミー

島根県は、8月9日（木）～11日（土）の日程で「メディカル・アカデミー」を開催しました。この事業は、医療に興味・関心のある中学生（2、3年生）を対象とした2泊3日の体験型合宿で、医師や看護師、医学生などから地域医療の現状や思いを直接伺うほか、医学の基礎となる理科の学習（カエルの解剖）や医療体験を通して、医療従事者を目指すきっかけを創出することを目的としています。

カエルの解剖

毎年、夏休み期間中に県教育委員会と連携して開催しており、平成24年度の第1回から数えて今回で7回目となりました。今年度は県内各地から40名の生徒が参加し、島根大学医学部附属病院、出雲市立総合医療センター、島根県立中央病院のご協力のもと、医療施設の見学や医療体験等を通して、医療従事者に求められることや地域医療について深く考えることができました。

また、医学部学生との懇談、現役医師や国際救援活動の経験をもつ看護師の講話を通して、どのように自分の夢や目標に向かい、歩みを進めていくかを胸に刻むこともできました。

参加した生徒の感想からは、地域医療への関心の高まりや、今回の体験が漠然としていた医療従事者のイメージを具体化させる良いきっかけとなったことが窺えました。

また、他校の生徒と寝食を共にすることで、今後どのような進路を歩む場合でも必要となる協調性やコミュニケーション能力などの向上も図ることができたように思います。

島根県ではこのほかにも、中学生と高校生が地域の医療機関で見学・体験を行う「地域医療現場体験」をはじめ、医学部や難関大学への進学を目指す高校1年生を対象とした2泊3日の勉強合宿「夢実現チャレンジセミナー」の開催や、小中学校が実施する地域医療教育への支援を行うなど、しまねの将来の医療を担う人材の育成に力を入れています。

【医療政策課　布野】

DOCTORCAST地域医療ようこそ先生　島根県　検索

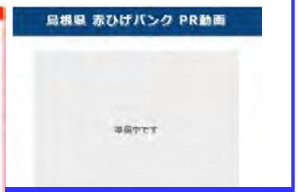
URL　https://www.doctorcast.jp/pref/shimane/

DOCTORCAST × しまねの医師確保対策

県の情報発信事業の一つとして、民間Webサイトに島根県の特集ページを開設しました。

医師転職・求人募集サイト「DOCTORCAST」のコンテンツ「地域医療ようこそ先生」に、赤ひげバンクの紹介をはじめ、医師求人情報を掲載しています。

今後はPR動画も掲載する予定ですのでお楽しみに！



情　報　発　信

赤ひげバンク

島根の医療機関で働いてくださる方を募集しています！

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。

赤ひげバンクにご登録いただいた方には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

※ご登録者の方で、住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

島根県健康福祉部医療政策課 医師確保対策室
TEL:0852-22-6683
E-Mail:akahigebank@pref.shimane.lg.jp